

# 平成29年度 学校評価報告書

校名	三田市立けやき台小学校
----	-------------

## 1 学校教育目標

**夢にむかって 堂々と歩む子の育成**  
(挑戦し 達成感を胸に)

① 元気で明るい子  
② やさしく素直な子  
③ 興味を持ち、伝え合って学ぶ子

## 2 今年度の学校重点目標

- めざす児童像(人とつながり、笑顔あふれる けやきっ子)・・・自問できる子に  
・「さわやかなあいさつ」が出来る子 → 自ら進んであいさつが出来る子  
(表情・声・気持ちを感じて)  
・「だまってそうじ」が出来る子 → 進んでゴミを拾う等より良い環境を求め子  
・「歌声で響き合う」子 → 心を合わせ、声を合わせて表現できる子
- 成長する教師像(見識、経験、個性を摺合し 新しい教育を創造できる教師集団)  
・教育の専門家としての高い使命感を持ち まなび続ける教師  
・児童の内面の共感的理解に努め、きびしさとあたたかさのある指導ができる教師  
・組織の一員としての自覚を持ち 同僚や家庭・地域との連携を大切にす教師  
・若い教師を育む教師集団をめざし、互いに関係性を深めつつ伸びる教師

## 3 総合的な自己評価

子どもの育ち、学校教育、地域との連携等、全ての項目について良好である。  
本年度の学校評価アンケート結果において、各設問A(できている)B(だいたいできている)を合わせて95%を超える評価があり、更なる教育活動の充実に向けて努めたいと思っている。  
笑顔あふれるけやきっ子の実現に向けて3つの合言葉の内、あいさつ習慣には、まだまだ課題はあるが、昨年度より92.1%→94.4%と児童の意識は伸びています。保護者の方は79.5%→77.5%となっていて、家庭や地域においても、あいさつ習慣がまだまだ課題である。また、心を合わせて歌う事、そうじへの意識は昨年度より向上している。  
次年度以降においても、教職員の意識を一層向上させ、家庭・地域とも連携協力を図ることで、課題達成に向け取り組んでいきたい。

## 4 総合的な学校関係者評価

学校長が変わっても、校長のリーダーシップのもと、組織的・計画的に学校運営を行っている。本年度も算数科の授業研究を通じた表現力の育成を柱に、学校・家庭・地域が密接に連携協力して特色ある教育活動が展開された。課題とするあいさつについては、学校評議員や学習支援、下校見守りボランティアなどで顔を覚えている地域の私たちには、道路で出会ってもしっかり挨拶してくれている。最近では、自治会加入率も落ちてきた、地域行事への参加率も横ばいである。家庭内での取り組みに差があるように感じる。PTAとしても、PTA だよりで呼びかけるなどして啓発していきたい。  
また、学校だよりの地域回覧や、HP の更新、学校参観の機会も数多く持たれるなど、子どもの育ちを常に家庭・地域に発信し、開かれた学校づくりが行われている。

## 5 評価結果

自己評価				学校関係者評価
分野・領域	評価項目(取組内容)	評価結果及び分析	改善の方策	学校関係者評価委員会の意見
学習指導	確かな学力の向上	良好。算数科における子どもの思考力・表現力を高めた。	どのような話し合いをさせたいのかを明確にし、課題に応じ適切に指導。	「分かる授業」「楽しい学び」を積み重ね、基礎学習の定着も図っていただきたい。
	教員の指導力の向上	良好。兵庫型教科担任制における組織的な指導体制が確立した。	互いに授業を公開し、多様な目で見合うことで指導力の向上に努める。	新任の先生方は、先輩の先生方からたくさん学んでおられる。活発な交流を願う。
生徒指導	学校いじめ防止基本方針に基づく取組	良好。学校いじめ防止基本方針改訂に基づく取り組みを進めた。	長期欠席や問題行動がある児童の家庭や関係機関との連携を図る。	先生方の個別の対応に頭が下がる。PTA や地域での見守り意識も変えていきたい。
	生活習慣の確立・生徒指導の徹底	良好。「けやきのくらし」に沿って、規範意識等の社会性を養えた。	教育活動全体を通じて全職員同一指導の徹底を図る。	学校、家庭、地域の役割を明確にし、連携協力して進めることが大切。
特別支援教育	特別支援学級・通級児童へのきめ細かな対応	良好。校内教育支援委員会を中心に適切な就学指導を努めた。	体制を継続するとともに、校内教育支援委員会の機能を充実させる。	「なかよし理解」など、児童への啓発や紹介の機会を得、着実な取り組みが見られる。
	通常学級在籍児童へのきめ細かな対応	良好。スクールカウンセラー・指導補助員などとの連携が図れた。	特別支援コーディネーターを中心に合理的配慮の具体を交流し合う。	特別支援コーディネーター2名体制は、大規模校には必要。研鑽を積んで欲しい。
保護者、地域住民との連携	保護者、PTA 組織との連携	良好。校長のリーダーシップのもと組織的に協力できた。	今まで同様、学校に係る情報の積極的公開を継続する。	ホームページ・学びの広場の掲示物、PTA 広報誌があり、情報発信が充実している。
	地域住民との連携	良好。下校・学習・環境ボラ等、地域との連携推進が図れた。	地域支援コーディネーターを依頼し組織化を推進し、より連携を図る。	学習ボランティアを新たに増やすことができた。地域との連携がより強化されている。
学力保障について	知・徳・体バランスのとれた児童の育成	良好。ひょうごがんばりタイムを導入。学力の二極化を食い止める。	新たに学習ボランティアを募集するなどして、更に取り組みを強化する。	家庭・地域との連携協力のもと、子どもたちの規範意識の醸成や安全面を考慮した環境整備など、校長のリーダーシップのもと、学校としてよく取り組んでいる。まちづくり協議会の取り組みも始まった。学校・家庭・地域が連携して良い学習環境を整える。
	教師の授業力の向上	良好。市の指定研究を継続し、多数の参観者からの評価を得た。	来年度も指定研究を受け、全教員の授業力向上を目指す。	
	地域の核となる学校づくり	良好。地域防災や芝生管理、堆肥作りなど、協力体制の整備。	多様で経験豊富な人材を学校に招くことで、地域の活性化を促す。	

## 6 学校自己評価の実施状況について

時期	内容
6～7月	第1回児童・保護者アンケートをもとに中間評価の実施。
11～12月	第2回児童・保護者アンケートの実施。結果の分析。
12～1月	教職員による自己評価の実施。結果分析。
2月	評価結果をもとに30年度に向けての計画・立案。

## 7 学校関係者評価委員会の活動について

時期	内容
5月	学校教育目標・評価手順の説明 運動会参観と意見交換
10月	児童・保護者の中間評価をもとに評価委員会開催 音楽会参観と意見交換
11月～1月	研究発表会&オープンスクール参観と意見交換
2月	児童・保護者・職員の評価をもとに評価委員会開催 評価のまとめ

※学校自己評価…外部(児童生徒・保護者・地域等)アンケートの実施を含む

## 8 学校評価の公表について

時期	手段	内容	添付
4月	PTA 総会及び学校だより	学校教育目標を説明し、今年度の重点目標や主な取組、計画等を説明。	○
9月	学校だより(臨時号)	学校評価(児童・保護者の自己評価)の中間結果を記載。保護者に配布。	○
3月	学校だより(臨時号)	学校評価(児童・保護者・教職員の自己評価及び学校関係者評価)の結果について記載。保護者に配布。	○
通年	学校ホームページ	学校評価の中間結果をアップ。学校評価(自己評価及び学校関係者評価)の結果をアップ	○

※ 公表の具体がわかる印刷物等がある場合には添付願います。 → 資料編添付